



有職問答
全

73
6258



6258

有職問卷一

被仰聞條

平徳齋

去五味均平蔵

武田藏書



一位記之詞云

制書如右請奉

備此心與日半にありて制書石に刻して之を傳へりけ

持心と云ふも心也也心と云ふも教日讀念と云ふ也

此心哉得得上意度候

制附外施の謹言

備此制の志右同前外は施の志と云ふ武官ハ中務省

兵部省ハ下シ文官ハ

より沙汰して式ハ省日告は之仍外施の志と云ふ

一 太政大臣日任夏

法家尤被執り多ク拜任不是と先途依家後人

擧家勿論と仰り仍て之の紐換と云ふは左大臣サノミ執り存セラレ又連綿規模トセラル方也の如く必相國の將と云ふ如く被任おはせり

一 太政大臣日贈号事

先祖日法印にて中絶する

家多ク多ハ勅拜ゆし由被任出のキ其分集

一 令旨事

親王院出家の事女院ノヲ令旨トナリ誰ニテモ其所ノ家司ノキ下奉事の云々と一人大臣家ニモ補ル

并おは奉事則称人令旨の事又家令にて擧用の下は自任

有命是ハ令旨ト可稱也らば但ていふ方敷りと申し令旨の夏官

門跡是ハ令旨ト可稱也の如く其は不擧家法家の門跡より

申し之を令旨と云ふは之の如く但し門主准后の

成たは院家准して令旨と申し之を海き

欽けいと云ふは年一人志て申すは申由之出出候

としようは控付被下候

一 廳宣夏

是ハ廳の下文を院家の云々と申し連

判の如く日の下ハ主典代其加判判方代ハ式日位署を

加て判形する文年号の通は院家の如くと奉り

わつ大は或ハ中納言堂と云ふハ人ハ位署を儀儀

とて其ハ一層の別當と云ふは後ハ別當と云ふハ

官の別當と云ふは其院家の別と云ふ別當と稱せし

況ハ位署と追ふ與へりハ位法儀の如くと云ふ

判形あり日の下例式あり興いり成事長者宣
こて持家と云ふる物も似たり被給り年越所は

わつたふ年号の通の位階定て院美のこくは

以上此の三テハ
六所の家ヨリ書下ノラ長者宣下下り其ハ氏ノ院弁トテ
乃多ゆ不長者宣の趣被給下後ハ南曹ノ弁ト云者必書下ノ連署モ
ハス只ハ人書ノ尋常ノ奉書ノ辨也應宣トシヒシテ称ハ別南宣ノ下名ハクハヤ

一 官府宣夏 是ハ不改官のそ友務の給て僧侶或

知の方木の下文と申すは必加判位署也と云

府宣事と云朱下りる文と改官と云字のよりの位署の

上より下りあつては此の是又と云より下り後ハ
弁案無所在の尋く可加の常ノ人ノ取帶證文ナト右ニハ多ク見及らぬ

一 勾當侍夏 内侍ウナオナ勾當ノ掌侍ト
喚也

是内侍のその一層とて惣内侍同しと云はる

せし尚侍のそ曲侍の付いた掌侍也と云はる左在馬

勢中いりる悉のそと喚之尉と行巻と斗ふこ

とく内侍のせしと六只行侍と斗ふとせしと内侍と

必尚侍のそ曲侍の付いたと云はる是とて内侍也

内侍の身其分と云はる巨細と云はる又常侍
此分の故
セウニテ内侍の内侍と喚ニテハ

と云はるはと云はるは是ハ内侍とて云

一 散一位と云はるは散位也 二位之位と云はる散と付て

稱也其己一位と云はるは必不納也任事人ありてハ

一位ハ不叙と二位之位ハ森議或ハ不納也其は

吉田神主醫陰也門院と云はる其院と云はる己散と云

通号一人阿闍梨なりし事、真言家の灌頂なりと云ふ人
 人より若くは是と官位よりわかれ、其の聖道なるの故に大中
 納言阿闍梨なりしゆ、大中納言に依りしは、阿闍梨にて
 出家と云ふ事ありしと云ふ事ありしを分る
 一 出弥号事 初級の法事と稱し、未受戒傳法
 の名及出法に法師のよりしと云ふこと、法師の法分なり
 一 入道事 常日、親授のよりし若くは是よりし若くは
 稀日、祿の由、御侍と入道と云ふ事ありし、新発と云
 一 氏日、明石入道と新発と祿の由に依りし、其の由
 一 神樂と奏するを御子と云ふ事

トハ世俗ノ云ナラハシテテハサレヒ
ミカニキナト古物語ニ云書ツキキリノ一可稱ルミコト不稱ヤル
正三位ヨリ從六位至十二等也今ニ委見タリ別ニ
可注也

一 勲位事 一等より十二等と云ふ、勲一等ハ一位
 二等ハ二位なりしと云ふ事、七位は六位と云ふ事、唐名此勲
 位よりわたりし事、常日、六位又位階なるもの、叙任する
 事ありし、神位、專有之人官よりし、事ありし、由りし位
 出りし、其の由、位階より唐名に依りし、其の由りし、唐名
 一 官位の名を讀むの事 常日、唐音に讀む、大文字
 一 武家賞翫事 鹿苑院殿と准撰家とて、此の由りし、

家礼致ス者也

一 ありの事とて其業を異門に留め給ふ事とて命

一 宣命位署吏 之位下は命とて其人の實名

宣命ニ限テ如此是社ニアラサレ故也 宣命位署吏 朝臣とて別ら子細とて他とて之位下は命とて

如何とて之位下は命

一 准命事 依解法新女房とて之位下は命とて

親房卿於南朝宣下也當朝ハ名不通用ニ今ハ准命下祿未ハ異テ他事ハ或 小當は之ハ由之位下は命とて

一 除目二字吏 名とて命とて之位下は命とて

此儀勿論也 叙位二字事 叙位二字事 叙位二字事

一 叙位二字事 叙位二字事 叙位二字事

叙位二字事 叙位二字事

一 平家物語の納言の位とて事

大納言典侍ニテは當時ニ禁中同女屋大納言典侍新大納言典侍現在也 女房事とて叙位とて之位下は命とて

一 重衡日野の位とて事 重衡日野の位とて事

シテトハ是ハア子大吏ノ三位タルキ度ニテハ此納言典侍ハ邦綱ノ嫡女六条院乳母成子ト 其意ハ納言典侍ノ位ト人ノ大吏ヲ三位ト号然ハ大納言婦也

一 記録ノ宣旨書とて事

宣旨ト帝ニ申ル世ハオホセテ人ニカセテ受テカハ但モカハイカマウノ古文ハ記録ノ 宣旨ト成物とて之位下は命

一 前官位署事 前大臣も非命議とて之位下は命

位署ハ位ノ實名を加テ書ハ他人ハ命とて之位下は命

一 可書ノ由ハ叙位事 叙位事 叙位事

一 廳宣事 檢非違使別當也別當号ハ職ノ付テ之叙

平家物語ニ前門大臣宗盛ノ山鳥ヨリノ請 之ニ奉ル是モ只物成ツツリ度ト覺テ 此ハアアリ又ハクモナキ度也

檢非違使

有と云ん普通日廳宣と申事高宣外公候得と云わ

一 院判官代主典代宣 官日付の判官代主典代と云わ

只禁中の判官代主典代と云わ

日ての由に云わ

一 蔵人宣 殿上人の如くは院官物園乳子と云事と云わ

二三物園家三職宣と号して家司の申其之後人と云わ

其後と云わ

一 文章生事 給料とて字同為勸学院并学院

宣下セラレテ其後給料と云わ

散位下事の位に在官の位者散位号と類ひて文章

生と云わ

一 生と云わ

姓を加て藤給料菅給料と云わ

之官之位に用ひ供の侍と云わ

一 諸司四分二分一分宣 各々五分の一分と云わ

諸国ナト目ノ下ニ史生と云官是一分也

此の如くは府生の位と云わ

之の如くは府生の位と云わ

此の如くは府生の位と云わ

改修の如くは巨細と云わ

一 春興殿ヲ官務家ト云わ

一 殊邪の勢り方より又按察使と、以てせんるる流
此の類家々多
此の一途は限由と之位はキ其の如し

一 廷尉号夏 檢非遠使位を申す
勿論
檢非遠使位を申す

一 遠使惣号は用ひ、
之位はキ

一 春宮坊東宮此兩様夏 是は傳大夫二名上古より正しく

明る差別は、傳東宮職は傳と出、坊は大夫と出、夏

是は公大夫何一は之但坊中一向大夫執權は之傳は

太子の位とあり、其役は之又其行状は以て意見と申

職して由は之傳は其の如し

一 勲位事 上右、位階の、
轉任あり今日具載

所詮位階トヒトシキ夏ニテハ令書分別注進ハキ
ハキ神位ト不可限由波流ハキハキ

一 神位事 必置之る事、
今宮近東近ハ之位と

海は依々本物神ハ位は依々奇瑞將位と、
ハキハキ

一 近代ハ正一位ハ一向神位ト定り、
由は之傳ハキハキ

當時天下諸神大畧正位ノマウニハ飲ハキ神位ト加ハモテキタリハキ事歟

一 内親王品位夏
叙品アルハキ也
今モ可叙夏

親王の、
是ハ五品トハ不申ハキ
之位ト必ハ之の夏ハキハキ

一 兼官事 大納言ハハ、
ハキハキ

自然ニ兼任ノ夏ハ
時、
ハキハキ

冷泉大納言ハ、
ハキハキ

参議ハ兼國々々必兼任シ其時ハ受領ヲモ不書然但官ヲ書ハ三國ノ守ナトハ不書之参議トナシ
但兼官ニシテ受領トハ補シテ去リ由ハ御守ニ書

一 職原抄ニ備仗二人ト其數多ク 然レ按察使四人ト

給トハ不書ナリ 不按察使ハ官只給ト復初換ニ由
被給カレキ 其分ハ

一 令ト云字事 是ハ作ト云ト旨 作乃首ニ懷紙端作

應令初方トナリ 院室ノ懷紙トナリ是ハ方御會ニ

令トナリ院室ト換ル事ト云ト云ハ初方ト分ル

一 御教書受 公家トシテ受テ是ハ應教初開ト云

所殿御會御任概ハ後 心ト被給カレキ 平抄分ル

一 院号ニ殿文字ト加受 雖非無其不審當ナリ

殿此類ハ法中ニ同前ハ 院号ト云ト云ハ初方ト分ル 但又院号トナリ

ルテ云ハ初方ト云ト云ハ初方ト分ル 巨細ト云ハ初方ト分ル

一 流罪公家改定事 配所國ノ權者ト云ハ初方ト分ル

納言ト云ト云ハ初方ト分ル 官ト除テ流罪ト云ハ初方ト分ル

帥ト被成テ常儀又ハ配所ト云ハ初方ト分ル 人遂カ家ト云ハ初方ト分ル

ニハ初方ト分ル 當病ト云ハ初方ト分ル 官ト云ハ初方ト分ル

配所ト云ハ初方ト分ル 官ト云ハ初方ト分ル 人遂カ家ト云ハ初方ト分ル

出カ年抄ト云ハ初方ト分ル

一 武士掃部頭昇進事 當職禁中ト現在堅

固也然ルニハ別ル地下ト云ハ初方ト分ル 仁深任ト云ハ初方ト分ル

此類ト云ハ初方ト分ル

此類ト云ハ初方ト分ル

此類ト云ハ初方ト分ル

此類ト云ハ初方ト分ル

ヲ東永夏式家東大寺八幡宮神輿造替ノ切ヲ募テ藤原直盛ノ子ヲ丹後守ニ吹率ノ間
ヲ軒殿ノ由ニ依ルキ其分也 （直盛ノ家臨時申付者近代不仕奉ル）

一出車度 女車ノ之ハ物取法儀ノリハ死付テ被借

進ハ其ノ女房被寫ハ一番ノ二人ニ數ノ二人四人ノ可也

中ノ加減ヨリ七八領ト或十領ト其用ヨリ隨ヒテ被進ハ

出ルヨリヨリテ出車ト申由トシテ被出ルキ其儀中ヨリ

府役トテ左右近衛中將以將是トイラセ其内花族羽林ハカマウノ府役ヲハ勤ハス何様大方羽
車ハ行ノ云家名ノ出ルヨリ被巨細被出ル也
林ノ役ニテ云方ノ出車ヲモイラセ也

被任用者ハ、
當代帝王ノ院ニ并謁度也

一朝觀事 被出ルキ今御幼稚ノ出内ノ出車ト申由トシテ之レ

被出ルキ今御幼稚ノ出内ノ出車ト申由トシテ之レ

是ト親王ノ御方御院衆ト申由被巨細被出ル也
申ハカラス天子ニカキテ申度ニテ也

一親王御之服加冠下官事 藏人頭 加冠左大臣常被度也

亦度ヨリ被御役者誰人ト定事也 初官行ト被

奉ルキ無呂親ト申由
私考ニ依ルテ卷タルキ也

一臨時容度 是ハ大臣等出出被出ルキ其儀中ヨリ

被出ル也
年指度花鳥餘情ノ委被注也

一尸事 被出ルキ其儀中ヨリ被出ルキ其儀中ヨリ

謙ハ其ノ儀中ヨリ被出ルキ其儀中ヨリ

由ハ其ノ朝臣宿祿連真人縣主ト申由被出ルキ其儀中ヨリ

申由被出ルキ其儀中ヨリ被出ルキ其儀中ヨリ

由ハ其ノ朝臣宿祿連真人縣主ト申由被出ルキ其儀中ヨリ

申由被出ルキ其儀中ヨリ被出ルキ其儀中ヨリ

由ハ其ノ朝臣宿祿連真人縣主ト申由被出ルキ其儀中ヨリ

申由被出ルキ其儀中ヨリ被出ルキ其儀中ヨリ

由ハ其ノ朝臣宿祿連真人縣主ト申由被出ルキ其儀中ヨリ

有職問答二
被仰聞條一

一 受領の月、唐名主簿定
策とては官と之は依縁
 日未其後申之、
令三委細見子、別二注進、
 一 權守事
任國三赴上テ吏務ヲ治ス、權守ハ多在京ノ人任之
 出の牛親受領國、
八國ノ守ヲ警回シ武士ノ心
 一 業平朝臣と陰陽神と祢の
是官の陰陽
 一 古註トテ正躰ニナキ物、其ニ陰陽ノ神ト書キ其意ヲ推察申シ、
 一 向何正ナキ意ハ伊勢物語

一 業平朝臣と陰陽神と祢の
是官の陰陽
 一 古註トテ正躰ニナキ物、其ニ陰陽ノ神ト書キ其意ヲ推察申シ、
 一 向何正ナキ意ハ伊勢物語

此の如く記すべし

一 書籍等 冊才日度なる

皆連綿也

不審の由らぬ スコレハ 儀但我抄物又ハ所望ノ人ヨリテ取

下子細と云々皆如此用末也

之也 但我流等と云々

神社佛寺の敬白も

一 作日敬白ハ勿論之云々

このつら下日敬白と云々 以上三ツ是ラ三敬白ト申也名

判形とハ事と云々 字ノ下ノ敬白ハ云家方ニハ用也 判形と云々

く是ハ心ておの物の物と云々

武邊ハカマウニハキカト見申也

一 六位尉受

尉尉未ハ使尉使直方と云々

一 使直方と云々

一 散位と云々

一 散位と云々

一 散位と云々

一 散位と云々

一 散位と云々

一 散位と云々

一 散位と云々

一 出納事

是ハ百官の内位ハ六位之御前と云々

の度之使直方と云々

四人目新出納ト呼ハ
節觸ヲ其後ハ沙汰宣ハルル也但本ノ道ハト宣ハ

案ノ可也檢非遠使宣是之ト宣ハルル年其各也
當時出納ハ左
近將監三ノ候

一 檢非遠使別當也 中納言兼議之外名補
院ノ別當又藏人所ノ別當ニハ補也

大長内可然ト上首勤ク別當宣受只一人也位者ハ

別當内ハ左ト宣ハルルト宣ハルルト宣ハルル其各也

一 大別當式院、宣、別當宣受也 是、檢非遠使別當

其院家ノ別當ト宣ハルルト宣ハルルト宣ハルル是ハ人

數名定見院ノ宣ハルルト宣ハルルト宣ハルル其各也
ニカキリハ親王家ニハ勅別當トテ大中納言ノ別當ニ補也大
臣不補也

一 親達御拜ト書事 弘安ノ禮ハ今ノ恐議を因テ之ハ御書
四位五位ノ位ニ昇殿ラテリ人ハ殿上人ト申也

一 殿上人事 是、トヨリ宣ハルルト宣ハルルト宣ハルル其各也

五條ノ外中ト宣ハルルト宣ハルルト宣ハルル是ハ人

一 弘安礼事 是、洞中ト宣ハルルト宣ハルルト宣ハルル是ハ人

院中礼ト宣ハルルト宣ハルルト宣ハルル其各也

故ト更ニ私ノ會人ト宣ハルルト宣ハルルト宣ハルル其各也

儀位儀位成ハ其位次ト宣ハルルト宣ハルルト宣ハルル其各也

儀ハ式ノ時ト宣ハルルト宣ハルルト宣ハルル其各也

同方ト宣ハルルト宣ハルルト宣ハルルト宣ハルル其各也

一 禁中對席也 大抵此分ハ節會座トト與揚ヲワカテ著リ議定帶トト又子細
有度ノ不一准也

向ハ日位次ト宣ハルルト宣ハルルト宣ハルル其各也

一 坊用をいふはなりと被申給とて叙せらるる因日因賜は
御給の院々御用の家々の通年是と書し給る
故と云ふの御院々宮に値いぬ及異論と云ふは
一 法親王事

是と宣ふも品位は親王因前より授け又因りては御家各々

一 内親王事 男親王三不相習也 世儀行 御出立

一 坊用家日令と稱率也

是ハ知家事安王なるは類いして其家の事と執事位に

位署候に令の事と云ふは大臣家ニモ令知家是以下也 御出立其家事其家事

一 延尉位署事 我と書し左大臣權候とて酒造坊候に

一 諸人任りたるは延尉別ら直有とて御用とて權候は使

直有の外は名候は但正位とて使直有といふ

一 上陽宮の唐人唐名は御字と事 官日心御出立

一 少輔の事 都督都護は御の字と按察使太宰

一 府内付の事 御出立其家事

一 位と書候は御の事 位とて御出立其家事

他人をり候は御の事 御出立其家事

一 御出立其家事

一 御出立其家事

一 御出立其家事

此分候

一 是て若湯替為人の書とて所行の巨細を記す

一 宣業位署是は職を有らば 兼人江中并藤原定方といは願

并三ツゆゑ蔵人取 舟の隻をせ給ふ 進湯方と舟方と職事と論ゆ歟

一 宣業位署是は職を有らば 兼人江中并藤原定方といは願

舟の隻をせ給ふ 進湯方と舟方と職事と論ゆ歟

一 宣業位署是は職を有らば 兼人江中并藤原定方といは願

一 宣業位署是は職を有らば 兼人江中并藤原定方といは願

一 宣業位署是は職を有らば 兼人江中并藤原定方といは願

一 宣業位署是は職を有らば 兼人江中并藤原定方といは願

一 宣業位署是は職を有らば 兼人江中并藤原定方といは願

一 宣業位署是は職を有らば 兼人江中并藤原定方といは願

一 宣業位署是は職を有らば 兼人江中并藤原定方といは願

一 義貞位署是は職を有らば 兼人江中并藤原定方といは願

一 義貞位署是は職を有らば 兼人江中并藤原定方といは願

一 義貞位署是は職を有らば 兼人江中并藤原定方といは願

一 義貞位署是は職を有らば 兼人江中并藤原定方といは願

也

是は職を有らば

三ツゆゑ蔵人取

是は職を有らば

通用ノ宣業

其修、雜録筆端

四位若三位三ツゆゑ人三后ハ兼見不分明ハ女院

多ハ先准ニ后三ツ後ニ院号ヲカウフニセ給フ也

宣業

大納言正三位兼行左近衛大将公卿陸奥出羽按察使藤原朝臣良房 別當兼義従三位行右衛門督兼中宮大夫伊豫權守藤原朝臣朝臣

參議大納言宣官ニテ兼帶ノ官ニハ辭退之後兼帶之ハ勿論ハ是ハ參議トモ

八省卿又諸官のつとむるに依りて任事し其子孫に傳

兼任ハナクハ 具傳之意ハ兼繼治泉兼川今ハ兵部卿トナリ然レ類ハ亦

一 義貞位署是は職を有らば 兼人江中并藤原定方といは願

一 義貞位署是は職を有らば 兼人江中并藤原定方といは願

一 義貞位署是は職を有らば 兼人江中并藤原定方といは願

一 義貞位署是は職を有らば 兼人江中并藤原定方といは願

一 義貞位署是は職を有らば 兼人江中并藤原定方といは願

一 義貞位署是は職を有らば 兼人江中并藤原定方といは願

一 義貞位署是は職を有らば 兼人江中并藤原定方といは願

此分可然ハ子細ニ

相中ハ申シテ也并ハ御書ニシテハ阿野相公ト云フ

申者相公羽林ト可呼三ツゆゑ官ハイツレニムラ可呼ハ条規模リ也

羽林ト申シテ類あるハ是ハ分別ハ仕ル巨細ト云フ也

はあ若し 是六位ヲ將監ナリ之ノ叙爵シテモノ下ノ將監ニテ有人ヲ呼ビスコト類據ノ意ハ
大史ノ爲メトシテ之ノ下ニ書スル也或ハ之ノ下ニ書スル也
董奉判唐文トハ則將監ノ大史ニ唯量申ル侍ニハ衛門大史左衛門大史ナト律古稱シツケル也其
利ノ下ニハ之ノ下ニ書スル也巨細ニハ之ノ下ニ書スル也外近代何モ大史ヲ付テ喚ハ
耶不心得ル様ニハ他如何ハ短クハ不分別候
新王津浦請命作者位署抽出不審條、
自從一位
至正六位

一自一品至正二位實名ノ下加シ

一 悉之他人ノ封叙之繼ハ之ノ下ニ書スル也

一 封叙ノ請命意及之ノ下ニ書スル也

一 封叙ノ下ニ書スル也

一 自從一位之位ノ下ニ書スル也

一 下ノ上ノ封叙ノ下ニ書スル也

一 封叙ノ下ニ書スル也

一 陸奥出羽按察使事 權帥ノ下ニ書スル也

一 計也之右ノ位署ハ本式ノ下ニ書スル也

一 護也之右ノ位署ハ本式ノ下ニ書スル也

一 代官ト書ス正身ハ在洛ト書ス其代官ハ出羽ノ秋田城ト書ス

一 人ハ出羽ト書ス之ハ是之又行ハ封叙ノ下ニ書ス

一 是ハ必無任秋田城ト書ス

一 征夷大將軍正三位姓事 世統ノ下ニ書ス

一 軍之係ノ下ニ書ス鎮守府因米ノ下ニ書ス

一 是之如何 是ハサハケモノトテ假令造東大寺長官修理九宮城使防

一 藏人正五位上行尤少弁ト書ス 是ハ藏人職事ト書ス

六位より姓より之を朝に之と書ふれ不審一此の
 付て尸と書ふ者ハ六位七位迄許也然鬼後等御
 内代ハ系禁制之其以六位と堅被制之四位ハ書之是
 位置ハ右躰と換歟云是又子細下請旨意也
 散位從四位下賀茂縣主唯久之也

一 賜主ノ事賀茂の云々 ニテ 彼衆中日用之但朝位
有ハカラス 書ト有ト云ハ何 阴阳家ノ賀茂朝臣ニテ也

己上右方作者抄出分如斯

有職問答 三

重而不審倫

一 神祇伯耆 伯ニ位伯ノニ位下稱 高所伯郷と三位と稱也故者伯ノ准之

三位大副郷少副郷或四位と称朝臣又ハ史朝臣九一稱
是ハ五藤六

一 儀同三司奉 准大凡ハ勿論也但ニ公ノ下大納言

の上とて是是ノ付て人数定也新儀同とて

此等ノ事ハ新儀同トモ不儀同トモ

儀同三司ト本儀從一位ノ唐名也然若中後以來ノ例叙一品ハ後准大臣可

預朝奏ニ由被真ニ後号儀同三司也人数ハ不定又官ノ下ニハ
 辞退ナト云ウモナレ前官高官ノ由ナレ只喚傳ハ称号ヲ加テ假令勸
 寺儀同日野儀同ナト称也又勅撰ナトハ儀同三司ト書ニ名字ノ
 斤名ヲ下ノ傍ニ付ニ新儀同トモ不儀同トモ

(Faint bleed-through text from the reverse side)

三司夏八伊周九近飯洛ノ後寛弘三年二月宣旨初例ハ哉

一 参議事

從四位上相當之自位至三位相當ノ系勿論
位行ハ其相違也

兼官也
尤右大弁侍從七省式部大輔文章博士等正次弼勅解由長官
近衛大將中將三府督該等推等此等何モ表該兼任ノ官也

一 滿冠官事

又ハ又任系家也

又ハ又任系家也

一 文章博士事

紀傳ノ儒トテ菅家江家藤氏ノ儒者ノ任スル官翰林等トテ文道ヲキテ
尊崇ノ官ニ當時ハ菅氏又日野一流儒業ヲ遂タル人任之ヲ賞號ノ職ニ
儒家ニアラサル人ハ不任官也

一 助教官事

明經道トテ清家中家ノ儒者五位ノ時任スル官也

一 直講

家又又何何何

坂上中原ト法家ト号シテ法曹ノ律令格式ノ文ヲ字スル家任之當時ハ勢
多大判事中原姉小路坂上ナト云者トモ此家也專式條ヲ守家也

一 算博士

相續セシヨリ彼家ノ輩其博士ニ任スル也又小槻氏ニモ今ノ官務時元カ流ニ同
此博士ニ任スル子細粗見職原鈔又大字寮ノ下ニ算博士明經方ノ算博士
士ニ任ル此所不審ハ其意ハソレハ昔明經道ノ者任ル由也

一 明法博士

右同

一 書博士

右同

明經ノ儒任之

私考此分益タルハキカ

一 音博士

右同

同前五經ヲ訓スル官也

一 文章得業生

是紀傳道ノ儒者厭業トテ大字寮ニテ文章ヲ書テ寮頭ニ被試唐名
人ノ進立及第ノコトクニ登用セシメテ得業ノ生トナシ是考ハ凡ハ凡ハ凡ハ
喚ナリノ厭業書フガ也寮頭ニ先ニセゴヒム心之出家ニ得業トナルモ南
都ニテノ維摩會此會等ノ講師シツトメテノ後得業ト称ス是武宗
ノ業遂得タル心ニテ喚也

一 諸陵官事

裏書云

御所廟大和山城中ニ柏原醍醐ナトノ天子代ハハ
御陵ノ歲尊ニ勅使ヲ差ラレテ礼儀アリ荷前ト云

一 左衛門 右衛門

是日府令は行成に任じ兼後行 同前近衛府生外衛府集

一 主馬 主頁 主鈴 武家より任じ馬判官は行

一 鎮守府將軍 東守府より定む兼美濃守也
上右東表ツ子ニ帝都ヲ襲間東守將軍ヲ置坂本官ハ何ニモアルレ鎮守ノ將軍兼任セルレ

一 征夷ノ將軍 右同前 此更粗ニ取職原抄凡美任ル將軍ナレハ名字ニ
アラハレテ天下守護ノ器トキコエリ能ク九

一 副將軍 執統百官より任じ別百官下也
是ハ鎮守府將軍ノ下ツカド覺ル但別ノ朝敵追討ノタメニ被遣將軍時接器為副將軍ノ余
先規勿論也

一 追補使 同前 後白河院管頼朝知ニ天下理追補使ヲ被仰介来天下ノ所後
見シ由テ追補使ト初定ツケ玉リテ罪

一 長奉送使 同前 科人ヲ相カフモウ多ク天下ノ莫ク惣テ沙汰ノ職ヲ上トメ被仰付ル所也
是ハ伊勢斎官ノ下向リ送りテ人ノ長送リキタテニル使ト云各言更後ニ條院代

一 檢非違使 兼非違使ハ別テ本官ニ任ルラ一級トス尤右衛門左右兵衛必此官ノ先途
裏書

別當 別當ハ理トテ重職ニテ不兼其徳輒不可任欽也執事ハ延府佐トニ是之名
家ノ時許任殊規模ハ府判官ト称ル武家ノ輩モ任ル家等殊存感志
ハ坂上中原各明経道者任之四道志トト也府生誰ニモ別當ノ相計ニ任之
必皆近侍外侍ノ官ヲ兼帯ス

一 別當 別當ハ理トテ重職ニテ不兼其徳輒不可任欽也執事ハ延府佐トニ是之名
家ノ時許任殊規模ハ府判官ト称ル武家ノ輩モ任ル家等殊存感志
ハ坂上中原各明経道者任之四道志トト也府生誰ニモ別當ノ相計ニ任之
必皆近侍外侍ノ官ヲ兼帯ス

一 別當 別當ハ理トテ重職ニテ不兼其徳輒不可任欽也執事ハ延府佐トニ是之名
家ノ時許任殊規模ハ府判官ト称ル武家ノ輩モ任ル家等殊存感志
ハ坂上中原各明経道者任之四道志トト也府生誰ニモ別當ノ相計ニ任之
必皆近侍外侍ノ官ヲ兼帯ス

一 別當 別當ハ理トテ重職ニテ不兼其徳輒不可任欽也執事ハ延府佐トニ是之名
家ノ時許任殊規模ハ府判官ト称ル武家ノ輩モ任ル家等殊存感志
ハ坂上中原各明経道者任之四道志トト也府生誰ニモ別當ノ相計ニ任之
必皆近侍外侍ノ官ヲ兼帯ス

一 別當 別當ハ理トテ重職ニテ不兼其徳輒不可任欽也執事ハ延府佐トニ是之名
家ノ時許任殊規模ハ府判官ト称ル武家ノ輩モ任ル家等殊存感志
ハ坂上中原各明経道者任之四道志トト也府生誰ニモ別當ノ相計ニ任之
必皆近侍外侍ノ官ヲ兼帯ス

一 別當 別當ハ理トテ重職ニテ不兼其徳輒不可任欽也執事ハ延府佐トニ是之名
家ノ時許任殊規模ハ府判官ト称ル武家ノ輩モ任ル家等殊存感志
ハ坂上中原各明経道者任之四道志トト也府生誰ニモ別當ノ相計ニ任之
必皆近侍外侍ノ官ヲ兼帯ス

一 別當 別當ハ理トテ重職ニテ不兼其徳輒不可任欽也執事ハ延府佐トニ是之名
家ノ時許任殊規模ハ府判官ト称ル武家ノ輩モ任ル家等殊存感志
ハ坂上中原各明経道者任之四道志トト也府生誰ニモ別當ノ相計ニ任之
必皆近侍外侍ノ官ヲ兼帯ス

一 別當 別當ハ理トテ重職ニテ不兼其徳輒不可任欽也執事ハ延府佐トニ是之名
家ノ時許任殊規模ハ府判官ト称ル武家ノ輩モ任ル家等殊存感志
ハ坂上中原各明経道者任之四道志トト也府生誰ニモ別當ノ相計ニ任之
必皆近侍外侍ノ官ヲ兼帯ス

一 別當 別當ハ理トテ重職ニテ不兼其徳輒不可任欽也執事ハ延府佐トニ是之名
家ノ時許任殊規模ハ府判官ト称ル武家ノ輩モ任ル家等殊存感志
ハ坂上中原各明経道者任之四道志トト也府生誰ニモ別當ノ相計ニ任之
必皆近侍外侍ノ官ヲ兼帯ス

一 別當 別當ハ理トテ重職ニテ不兼其徳輒不可任欽也執事ハ延府佐トニ是之名
家ノ時許任殊規模ハ府判官ト称ル武家ノ輩モ任ル家等殊存感志
ハ坂上中原各明経道者任之四道志トト也府生誰ニモ別當ノ相計ニ任之
必皆近侍外侍ノ官ヲ兼帯ス

一 別當 別當ハ理トテ重職ニテ不兼其徳輒不可任欽也執事ハ延府佐トニ是之名
家ノ時許任殊規模ハ府判官ト称ル武家ノ輩モ任ル家等殊存感志
ハ坂上中原各明経道者任之四道志トト也府生誰ニモ別當ノ相計ニ任之
必皆近侍外侍ノ官ヲ兼帯ス

一 別當 別當ハ理トテ重職ニテ不兼其徳輒不可任欽也執事ハ延府佐トニ是之名
家ノ時許任殊規模ハ府判官ト称ル武家ノ輩モ任ル家等殊存感志
ハ坂上中原各明経道者任之四道志トト也府生誰ニモ別當ノ相計ニ任之
必皆近侍外侍ノ官ヲ兼帯ス

一 別當 別當ハ理トテ重職ニテ不兼其徳輒不可任欽也執事ハ延府佐トニ是之名
家ノ時許任殊規模ハ府判官ト称ル武家ノ輩モ任ル家等殊存感志
ハ坂上中原各明経道者任之四道志トト也府生誰ニモ別當ノ相計ニ任之
必皆近侍外侍ノ官ヲ兼帯ス

わす、藩者の一行字と其宿守を合て赤書字の一行字を

去はける蓋し宿守とて之は注下也 此是官位相當兼官多の時書

様古今之意趣區分一兩雜載之難被最不審致重三列一可注申也

一 尸事爵とて、朝臣に宿守宿連真人も宿守の下に

補之也 宿後之字下三果ノ宿稱真人縣主ト必稱五序程、是字下三不稱也
勅撰作者ノ七代朝臣ノ外八四ノ後モ果宿稱真人ト下三不加之也

一 大夫 浦大夫と稱之は宿守宿連の心也
此更更不得覺の推尊のハハ堂殿ヲ大入道殿トハ是賞職ニテ歟ナレ清家大夫記
頼業真人シノ子孫執レテ大夫外記ト今申習ハ是モ三浦家ニテ一段執レテ大ノ
加レケルカ又子息ナト己當國ノ人ニ行任ハ後如此家ニテ稱レケルカ可為兩様也

一 從五位上行 大守多、或朝臣義貞大守式位若は
合多の心也

一 大中大夫 大守兼山城安藝石見國防長門等前
統部七列大守多、或義貞朝臣初禱院録の心也

おびる心也 此等無相遠の七列之兩字差致畧テ三宜歟如何

不審修、

一 宿守の兼任ハ名目大政長、初用也 任之也、此等
各任之撰政ハ忠云初例、開白ハ昭宣云初例、皆是太政大臣ノ時程ヲ撰政例也
初用也、高直ノ心也、或ハ初例也、是ハ依

口心大政長心公長と被稱、補之也

補之也 近代其昔以如此也

少と貞守心也 巨細ニ依也

一 左大臣兼相大守兼大守と稱之他人ハ其等書レテ其書と

然也 此等或ハ兼該大守其自身ハ兼也

口心大政長心公長と被稱、補之也

いりまゝくゆりて行

一 本分教三人三篇此此喚一福二福三福とて四人は他人二福不記

二 福不記とて書る自書は少不記若く権不記とて

此分此の成りて一日書令 世に何

一 凡史二人角一人の位とてまゝ其位は又史と云決と成若

此分とて他人の又史は未だ不記の史とて二人ありて位事と

勿論其代置在上首八大畧官務下福の新大史史ト新四位史ト也

一 凡史是二人ありて位は他人の姓とて中史とて六

家史とて又二人の中より一福人と新史とを補ふ

此の成りて又史とてまゝ 是又何

勿論

一 凡史是二人の中一人と凡史と半と或は少史

とて其位の一人は端史他人の姓は少史とて書る

世に何

一 凡史是二人の位三人の中一人と凡史と他人書る

此の成りて又一人と新史とを自書の中少史と

調へて世に何

一 侍史は元侍従中の侍史若く他人の姓とて其位は

位署ハ親官ニ侍從ヲ載ルと名すして不中絶を或は免職して書る又二位之位は

侍史一人は自書は凡史と調へて

世に何

叙爵の儀、尉成、海、六、位、成、と云、我、散、位、と云、

他、八、左、右、左、右、と云、廿、位、相、考、と云、

一、陸、奥、地、指、察、使、と云、他人、指、察、と云、

茶、殿、ト、云、之、或、按、察、中、納、言、殿、ト、書、之、

一、防、略、河、使、と云、是、使、宣、旨、と云、

右、書、之、可、也、

一、檢、冰、遠、使、と云、海、府、督、と云、他人、尉、と云、

是、使、宣、旨、ト、蒙、テ、後、延、尉、ト、呼、ル、也、

是、延、尉、ト、云、

一、延、尉、と云、

是、延、尉、ト、云、

是、延、尉、ト、云、

是、延、尉、ト、云、

是、延、尉、ト、云、

是、延、尉、ト、云、

是、延、尉、ト、云、

是、延、尉、ト、云、

是、延、尉、ト、云、

是、延、尉、ト、云、

是、延、尉、ト、云、

是、延、尉、ト、云、

是、延、尉、ト、云、

是、延、尉、ト、云、

是、延、尉、ト、云、

是、延、尉、ト、云、

是、延、尉、ト、云、

是、延、尉、ト、云、

一 祿位是し本姓を云也 行本と云ふは 祿位を以て云ふ也

巨細之別也

一品二品三品以上親王之位也 皇太子

親王位は勿論也 世孫は二位三位と云ふは 皇太子

皇太子位は勿論也 皇太子位は親王位と云ふは 皇太子

五位と云ふは 皇太子位は親王位と云ふは 皇太子

一 女官位一采二采三采四采妃也 女官位は皇太子

陽位五位六位七位八位と云ふは 皇太子位は親王位

皇太子位は親王位と云ふは 皇太子位は親王位

一 上皇六院抄

抄

一 上座寺主都維那師等上三經也

抄 皇太子位は親王位と云ふは 皇太子位は親王位

皇太子位は親王位と云ふは 皇太子位は親王位

皇太子位は親王位と云ふは 皇太子位は親王位

不可替候寺ニヨリテ阿闍梨何ロ置ト宣下セラレタル寺ハ其モ三經ノ外ニ行法ノ阿闍梨ヲ置ハニテハ

一 有職問答

一 不審條

一 冬議の正位は御家法儀の亦よと云はれぬ

一 冬議の正位の中は冬年其不仕の位に

正位は正位也

一 冬議の正位は正位と云はれぬ

正位は正位也

一 武家子斯波昌山近年赤松の位に

故政則依神靈一賞儀の其例也

是ハ正位也地下ニテアルカハ

進上の礼目録

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '一 冬議' and '正位'.

等 詔書を以て下補等行出され也

日本三相習之不可有首也

一 入為日之任の久長演沙の由職して其の

も其任の兩為勢を以て大演經歷候し

一 大納言の由候の演沙と申せし其位署の上書

惟大納言位三

中納言三

一 行詞又他人言の演沙と申せし其位署の上書

被任出され

一 大政大臣并公任大納言以下末位即成り

後進一人出候所辨退之

一 除日次中納言の俾其人日より其位を所擧

一 白の事と云

亦用ニシテカニテ上トモ抑置又下トモ申請テ擧置
又モ時ニヨリテ有度ニテ申更ニ申定法也

一 特約の権中納言に申せし其位を所擧

本末不

置權 車八及取の條也

少納言三人任之由何モ昔少納言信清の由
ナト呼ば後任の少納言ト喚ば

一 権の字は本高は後定也と申せし其位を所擧

一 不承の補也

當時大納言の各權大納言行中納言ニテ傳正トテ平
大納言傳正トテ其時權下ハ由ハ只大納言トテ
ナリ是ハ任大臣高會ヲ取行ハ由カ一才ニテ中納言正傳正トテ又時ハ傳正トテ其時權下ハ由ハ只大納言トテ
来只皆權大權中ノニニ一俵也

一 並人事の由は其位を所擧と申せし其位を所擧

四位在位殿上人帶之由其上首ニ人殿
ノ頭ト申せ也

一 位階とハ御傳奏上卿也記職の由は世に奉り

一 是又巨細の由也

位階ハ傳奏ノ差職更奏用ニテ勅許ハ後職更ニ由
上ノ事トシテ位記令作也官ハ職更上ノ位トテ
内記ニ傳宣等シ成ル又官ニヨリテ官務奉行ハ上卿必弁ニ下知シテ弁ハ官務ニ
伴也傳ノ位ニ悉官務下知也

一 抄家法に依り家法と云府務依尉志と云經歷也

勿論 是不任也

一 二職の由は進等と云同職司先并受領以下

以上不任也 兼固トテ殿上人時

ハ外推ハ各時ハ權守必兼之代々ノ佳例ヲ守テ任来也

表云

一 勲位より一等至三等ありては、勲位令ニ叙分十二等ニシテ上六等ハ勲位上六等ニシテ下六等ハ勲位下六等ニシテ 被贈神社に祀るべし

勲位令ニ叙分十二等ニシテ上六等ハ勲位上六等ニシテ下六等ハ勲位下六等ニシテ

一 位と官と身とを兼りしは、位と官とを兼りしは、 位と官とを兼りしは、位と官とを兼りしは、

去りし又官受領よりして、去りし又官受領よりして、

一 姓と位と官とを兼りしは、姓と位と官とを兼りしは、

日補之行

此爰自位日去りて又日呼本朝を判し法極也

一 位階は位階と官とを兼りしは、位階は位階と官とを兼りしは、

一 東宮傳りしは、東宮傳りしは、

一 説書受りしは、説書受りしは、

一 掛家法は、掛家法は、

一 位階は、位階は、

一 攝家法は、攝家法は、

一 歴代は、歴代は、

一 越前守は、越前守は、

一 近衛府は、近衛府は、

一 左大臣は、左大臣は、

一 右大臣は、右大臣は、

一 親王は、親王は、

一 皇太子は、皇太子は、

一 皇孫は、皇孫は、

一 皇孫は、皇孫は、

白雲初位は二階三等ありては、白雲初位は二階三等ありては、

被贈神社に祀るべし

勲位令ニ叙分十二等ニシテ上六等ハ勲位上六等ニシテ下六等ハ勲位下六等ニシテ

位と官とを兼りしは、位と官とを兼りしは、

去りし又官受領よりして、去りし又官受領よりして、

姓と位と官とを兼りしは、姓と位と官とを兼りしは、

日補之行

位階は位階と官とを兼りしは、位階は位階と官とを兼りしは、

東宮傳りしは、東宮傳りしは、

説書受りしは、説書受りしは、

掛家法は、掛家法は、

位階は、位階は、

攝家法は、攝家法は、

歴代は、歴代は、

越前守は、越前守は、

近衛府は、近衛府は、

左大臣は、左大臣は、

右大臣は、右大臣は、

親王は、親王は、

皇太子は、皇太子は、

皇孫は、皇孫は、

皇孫は、皇孫は、

一 正位袍袖布衣并差用者是行巨細之被修及也

一 直衣烏帽子是行

一 正位之儀正位之儀

一 冠冠

一 輦車牛車輦車牛車

一 北政所北政所

一 人老人老

一 輦車輦車

一 北政所北政所

一 人老人老

一 輦車輦車

一 北政所北政所

一 人老人老

一 輦車輦車

一 北政所北政所

一 人老人老

一 輦車輦車

一 北政所北政所

一 人老人老

一 輦車輦車

一 北政所北政所

一 人老人老

一 輦車輦車

一 北政所北政所

一 人老人老

一 輦車輦車

一 北政所北政所

林也

太宰大貳三階成章卿為妻仍大貳号りゆる夫官ヲ喚は初泉式部八保昌朝臣和泉守ナリレ時ノ妻ナレハ和泉式部ト夫ノ考加用事ナレ也

女小直首

是申守宣旨春宮ノ宣旨又用自家宣旨ノ局トテハ其用白ニナラレ時ノ宣旨ヲトリタル女房ヲ喚は此宣旨ヲ撰テ撰用家ノ宣旨取傳タルアラ子ニ可然女房ナト自然号

武家の被官

武家の被官ノ威人兼之林也トテ行ハ省ノ兼之也

或又右左衛尉

或又右左衛尉ノ威下ノ侍ナリトテ行ハ

宣物

宣物ノ目下小知家事ナリトテ女王ノ

巨細

巨細ノ事ハ御筆云ハ書下ノ物ニ在テ將是ヲ奉ル所既ノ書下レハ其左左衛尉以下連署ハ不審何ノ文ニテハ其見及ハテハソラニカリガ多ハ加極ニ是ハ宣下ノ物ニテハハミレキ左左馬寮ナトノ御筆ナトナリト文也

一 新嘉徳の後に後使守左將實定所或定家家隆

此更自然ニカリ云付タルニテハ可然名書ノ人ヲハ近代ニ多クカマラニ林也

一 諸官并受領の如き

如き所ニ林也

一 備使事役

以テ前 卷物ニ注之畢

一 天子の御給旨

勅書詔書宣命トテ大内記章進ニテ此上ニ御書トテ年号月ノ下真高日ヲ天テノ

一 院

院ノ事ハ院直公ノ事ハ行ハ

一 親王并宮

親王并宮ノ事ハ別テアチカキ無其林也地下ノ筆コトキニ大畧家司奉書也

一 御業、院行幸、三子以啓、春宮中宮親之、是只渡所ト云

哉如何

一 御車上中下の御車并御車、此字不審成候人被用也

一 簾内之 簾除ハ綱代車ノ受放諸人通用ノ物ハ毛車ハ擯御モトテ公卿兼用ハ系毛此ナド規模ノ衰ハ長物見ナトハ上首アレハ公卿普通ノ紋車ハ殿上人家ノ紋ヲシテトクム也ハ八葉聽被用ニ轉直ナル物ニ

一 御車、此箇近俗ノ語也モコソハニスラ所出ナトモコ習ル致

一 御祚 天子ノ位ヲ 受禪 即位ノ御行

一 崩御 禮記書天子死曰崩諸侯曰薨大夫曰卒士曰不禄庶人曰死大概是准シテ可知也 薨 卒 逝去ノ御行

一 聖号 以上宣下ナキモノ也 長号 大号 大号 御行 宣下行

一 御正 大 御都 大 御師 正 御阿闍梨号 御行

一 致事表 御事源ハ物語ニハ行ハ得ル也

一 御本 御巨細被仰ル也

一 御行 御事

一 御子 將軍家并之御領主ト下相伴無進上之物

一 御御 御實名等御進出御巨細ト云

此夏堅固内々御一定ル趣下意ヲ持テ朝臣弘源守永亨禁中御職法ノ時

常ノ所ノ所ノ實子ニ云ハカ内ノ料トテ万足進上カ時ハ折紙ニ進上カ足上ト書テ
以傳奏普廣院殿ニ進上カ處ヤカテ其折紙ヲ所本ニテ御披露カケルヨシ兼
及カ大抵何モ調儀ハ此分ニテコソ覺カ

一 存元ノ御披露ノ類無殊カ法通例ノ様カ

一 内奉外奉ノ御披露ノ類無殊カ法通例ノ様カ

一 宣旨ノ御披露ノ類無殊カ法通例ノ様カ

一 悉之以狀ノ書ト云ハカ御披露ノ類無殊カ法通例ノ様カ

一 上御ノ事ノ御披露ノ類無殊カ法通例ノ様カ

一 仙洞ノ御披露ノ類無殊カ法通例ノ様カ

一 表書ニハハリ常ノ大ロシニシテ女モキルナリ

一 云子ノ御披露ノ類無殊カ法通例ノ様カ

一 御披露可相替也所御披露ノ類無殊カ法通例ノ様カ

表書
内ニテモ引ツクカハ時御披露ノ類無殊カ法通例ノ様カ

一 親王ノ御披露ノ類無殊カ法通例ノ様カ

一 御披露ノ類無殊カ法通例ノ様カ

一 御披露ノ類無殊カ法通例ノ様カ

一 御披露ノ類無殊カ法通例ノ様カ

一 御披露ノ類無殊カ法通例ノ様カ

一 御披露ノ類無殊カ法通例ノ様カ

一 御披露ノ類無殊カ法通例ノ様カ

一 御披露ノ類無殊カ法通例ノ様カ

一 御披露ノ類無殊カ法通例ノ様カ

一 御披露ノ類無殊カ法通例ノ様カ

有職問答 五

言上條

一 坊官除日事

春宮方除日勿論由宗之出少

五坊トテ白皇子ノ春宮ニ即之由日ノ裏波行ノ執業ハ大外記差ハ他家相也清少

兼於當坊御親シク兼ハ侍臣トシテ大内也

一 馬判官事

春宮方の官勿論由宗之出少

是ハ推量也侍

春宮ト見エ仕屋平家の侍トシ馬判官威久トシ

三ノ使ノ宣旨ヲ蒙タル者三ノハハニスルニ其仁又主馬ノ首任タル前兼官ノ心ト前中ノ

トシ世治トシ侍御其各ハ一人トシテ執事トシ

春宮方トシテ兼ハ侍御トシテ必使宣旨トシ蒙

春宮方トシテ兼ハ侍御トシテ必使宣旨トシ蒙

春宮方トシテ兼ハ侍御トシテ必使宣旨トシ蒙

春宮方トシテ兼ハ侍御トシテ必使宣旨トシ蒙

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '言上條' and '有職問答'.

平有由

事と云ふ所の御使と云ふ所の御使と云ふ所と家
御使と云ふ所の御使と云ふ所の御使と云ふ所

一 検非違後事 此は善悪不仕の四府の統尉志

等直旨と家御使の御使と云ふ所の御使と云ふ所

日、檢非違使の御使と云ふ所の御使と云ふ所

御使何れも到るは、檢非違使の御使と云ふ所の御使と云ふ所

之れは、檢非違使の御使と云ふ所の御使と云ふ所

識る御使と云ふ所の御使と云ふ所の御使と云ふ所

一 将書府生事 此は、檢非違使の御使と云ふ所の御使と云ふ所

三、任の府生ハ、大将ノハ、カウヒニ、任の官ハ、兵杖ハ、模用大臣ナト可然之人宣下セラレ
後、任の官ハ、兵杖と給へる相違由何れも御使
テ賜之

一 御使の御使事 中原氏の人と云ふ所の御使と云ふ所

采之御使の御使、御使誰人として御使と云ふ所

少別達の号、武家として御使と云ふ所

一 鎮守府事 陸奥守タル人兼任の北見見職原鈔ニ由ル

御使の御使、御使誰人として御使と云ふ所

一 准之御使事 此は、檢非違使の御使と云ふ所の御使と云ふ所

或は、檢非違使の御使と云ふ所の御使と云ふ所

必補任の御使、御使誰人として御使と云ふ所

ルハリトモ大叙司ノ旨ハ...

中ノ叙爵ノ河ニ補位...

少中ノ行継ハ...

類ノ中...

冬儀事 送位ニ...

望玉准天然者...

一ノ事又...

官出...

後成卿位者...

一任位藤原朝...

身抱...

一會事 武家...

云家...

一外記局度...

定て外記...

一上出向事...

國行家礼...

一供...

是ハ...

人ノ...

華...

北分

哥合

是ハ...

一 青侍事 物名は女房の青女ナドト同事ニ後ヒ侍
行成侍中物名は女房の青女ナドト同事ニ後ヒ侍 禁中物名は女房の青女ナドト同事ニ後ヒ侍 日物名は女房の青女ナドト同事ニ後ヒ侍 御装束

米物名は女房の青女ナドト同事ニ後ヒ侍 行成侍中物名は女房の青女ナドト同事ニ後ヒ侍 禁中物名は女房の青女ナドト同事ニ後ヒ侍 日物名は女房の青女ナドト同事ニ後ヒ侍 御装束

一 觀宗使事

是物名は女房の青女ナドト同事ニ後ヒ侍 行成侍中物名は女房の青女ナドト同事ニ後ヒ侍 禁中物名は女房の青女ナドト同事ニ後ヒ侍 日物名は女房の青女ナドト同事ニ後ヒ侍 御装束

一 御装束

一 御方差遣表

御方差遣表

一 傷事 是日少少傷事 常事

少傷事 是日少少傷事 常事

是日少少傷事 是日少少傷事 常事

一 子細物名は女房の青女ナドト同事ニ後ヒ侍 行成侍中物名は女房の青女ナドト同事ニ後ヒ侍 禁中物名は女房の青女ナドト同事ニ後ヒ侍 日物名は女房の青女ナドト同事ニ後ヒ侍 御装束

一 唐名物名は女房の青女ナドト同事ニ後ヒ侍 行成侍中物名は女房の青女ナドト同事ニ後ヒ侍 禁中物名は女房の青女ナドト同事ニ後ヒ侍 日物名は女房の青女ナドト同事ニ後ヒ侍 御装束

一 朝物名は女房の青女ナドト同事ニ後ヒ侍 行成侍中物名は女房の青女ナドト同事ニ後ヒ侍 禁中物名は女房の青女ナドト同事ニ後ヒ侍 日物名は女房の青女ナドト同事ニ後ヒ侍 御装束

一 養帳女事 是日少少傷事 常事

一 一人物名は女房の青女ナドト同事ニ後ヒ侍 行成侍中物名は女房の青女ナドト同事ニ後ヒ侍 禁中物名は女房の青女ナドト同事ニ後ヒ侍 日物名は女房の青女ナドト同事ニ後ヒ侍 御装束

一 是日少少傷事 是日少少傷事 常事

一 女事 是日少少傷事 常事

一 女事 是日少少傷事 常事

一 刀自主殿物名は女房の青女ナドト同事ニ後ヒ侍 行成侍中物名は女房の青女ナドト同事ニ後ヒ侍 禁中物名は女房の青女ナドト同事ニ後ヒ侍 日物名は女房の青女ナドト同事ニ後ヒ侍 御装束

一 刀自主殿物名は女房の青女ナドト同事ニ後ヒ侍 行成侍中物名は女房の青女ナドト同事ニ後ヒ侍 禁中物名は女房の青女ナドト同事ニ後ヒ侍 日物名は女房の青女ナドト同事ニ後ヒ侍 御装束

一 律令格式事

世に部何れ其巻数いづ程并律條

日意越行事令條日行の格式何れ其部有越之

出方の 令 十卷 律 十卷 世に格式律有之

律令事刑罰ノ事シ、出方スル也令天下ノ法度ヲ定ムル書ニ格式ニ律令

一 不審修

一 太政大臣事

世に部何れ其巻数いづ程并律條

不廻太政大臣の事、一向別院、度日方、世に部

との由、河内、丹波、出方、別院、度日方、世に部

兼、出方の事、世に部、又太政大臣、世に部

家、世に部、世に部、世に部、世に部

西園寺三十一條、公經、徳光寺、水本相、山本相、山本相、山本相

行、世に部、世に部、世に部、世に部

有、世に部、世に部、世に部、世に部

巨細、世に部、世に部

一 卿字事

上陽、世に部、世に部、世に部

卿、世に部、世に部、世に部、世に部

卿、世に部、世に部、世に部、世に部

卿、世に部、世に部、世に部、世に部

一 唐事

上陽、世に部、世に部、世に部

或、世に部、世に部、世に部、世に部

朝、世に部、世に部、世に部、世に部

但外に不及ぬ諸君或は國守なりしは行儀若くは
多し無き宿祿真人連懸するも一に考案せらる

一 檢査遠使宣事

兼て宣旨官の宣旨の出入

之の出納の云々 藏人三三交の出納也 使宣旨官三御ノハキニ
以前之巻物三注之之除時三補スル時宣旨書ニ下ヨリキ事ニ近例
様行と云々 宣旨官ハ悉ク其分也使宣旨官

令に給儀も存せり 必可行情會ニテハ大臣檢査遠使名交曾以不可有之

一 叙立除月内陽事

陰子蔭孫とあり 每位ノ時三用之ハ但叙位ナト同日務テ叙爵ハ人ナトハ其義ノ位ニ
隨テ上ニ書ハ条近代其分ハ
カレハ事ニヨリキ事ハ
叙立除月内陽事

一 親王國司尊号

上総と野常陸 此分ハ

物之行は カカサト也 是は任限者は不同編の法
他官ニモウツテハ又前ノ上総ノ親王トモヤク

一 受領之事

一人行の國計 モ上古ハ自然ニ任シハ近代ハ有名不實ハ

一 蔵入事

大正分論 時地下ノ者ニ從人ニ補ルハ昇殿禁也

退の 申也四品ニテハ從人ノ頭ニ又昇進之也

一 鑄錢日事

世蔵上名ハ在京子と定共ハ

いふことある人...
史生官トテ史生ヨリニ下ノ者ニテ大政大臣ニテ

一 宿業事 後身行ハシテ沙汰也

一 主頁事 年貢ラツカサトリルガ

一 主馬事 同類之極ニ定ム主馬行ハシテ沙汰也

一 姉小政判官明辰事 是道トシテ人取也

一 若者左衛門志之部事 此別行ト呼ビ何

一 若者判官左衛門志之部事 此別行ト呼ビ何

一 若者左衛門志之部事 此別行ト呼ビ何

一 若者左衛門志之部事 此別行ト呼ビ何

一 若者左衛門志之部事 此別行ト呼ビ何

一 帯刀蔵人兩官事 此亦沙汰中ノ用ニ禁業事

方ノ官ニテ少カ東言ハレキ時ハ有カラサルニテ禁中ノ者ニテ各別ハ又九ノ官
即チカレハ有ルガ

別ニ有ルガ

當時ナキモノニテ中トニ任ルキ道理有カラサルニテハ

一 左衛門少輔位事 此其代ハ必先正位下ノ叙ハ

其内ハ式ヨリ正位下守ヲ宗々更ニ多ク其朝ハ

世分ニ調集ル年毎願ハテ其後ハ左衛門少輔

位下ノ叙之極ニシテ其後ハ左衛門少輔

必ず字可相加由ニ蔵原抄ニテト見元何何ト

賞位ニ任ル殊位ト官相違ハ位トシテ書後

勿論又位ニトヨリ是ハ異官ヲ上ニ書ク位ハ下ニアル事余根ミナク心得レ
不相當内ハ位と云ふ才由ルハ行ハは守子守
タルト竟ハ當時ハ又從四位行在示大夫如此可有カ
ハルカ夫又正五位下守多ク政朝ハカシノ守字
有(カフスル)

一就立身初ハ叙爵事

姓ハ不多物ニアル姓ハ必可書其ノ事此段
ハ行ハカシノ先祖ハ之實候ルハ叙
未得其意ハ
爵と初ハ仕ル者ハ式ノ位署ハ朝臣宿祿連真人
ノ内ハカシノ行ハカシノ用ルテハ叙ハ(田舎者)ハ
中ハ爵とハ望ルルカシノ位記カシノ計カシノ
カシノ尸定リカシノ叙ハカシノ
用カシノ位署ノ様通理ハ持カシノ

一散狀事

散狀事
是アル其月ノ受ニ隨カシノ人カシノ書カシノ折書カシノ散狀ト
カシノ諸事カシノ注カシノ夜ハ

一叙位ノ所ハ

叙位ノ所ハ
カシノ女カシノ式カシノ様カシノ其カシノ行カシノカシノ
是ハ女ニテ則水ノ方カシノカシノ者也東屋子ハ天子ノ所
主水カシノカシノ位カシノ相カシノカシノカシノ
カシノモツ使カシノカシノカシノカシノカシノカシノカシノ

一王冠玉佩

王冠玉佩
朝賀トテ元日ノ公夏今ハ久純
カシノ時カシノ其カシノカシノカシノカシノカシノカシノ
定テ物ノカシノカシノカシノカシノカシノカシノカシノ
用カシノカシノカシノカシノカシノカシノカシノカシノ

一州冠

州冠
カシノカシノカシノカシノカシノカシノカシノカシノ

かひのり... 俗にソソキト云大臣兼之將又着之内衣也

直衣 水行 引直衣 高袴

襖袴... 尋常見ナド用之天子ノ御用ニ松ニ不用也

又... 半臂是ハ東帯ノ特下ニ着

又... 将衣ノ

又... 袴

衣冠... 八袍ヲ着貫ノトニキル事也

又... 表袴ニ袍ヲキル下襲ナド色ノカサ子アリテ下襲ノシトテ裾ト

又... 外衛ノ夏近來ハ平録達ニナドノ時ニ隨テ帯釵ニ其至ク

又... 晉ハ是モキトハ雅ナリ

一勅解由長官... 長官次官又各別勅解由使ノ長官又別ニ有也職

属... 原初ニ能見下也

一女房院号事... 女院号蒙ラセ給定帝王ノ母后御妹后ナド昔ハア一タニ御所ナリ

禁... 八條院トナリテ三十三ヲ給テ後院号

書... 是又子細ニ記シ置

一... 當時只南ノ方東ノ方ナドトノミテハ宮ヨリテ御所

一... 托家ノ小政勿論

一... 是又定而

一... 後家ト云物ニ書

一... 是又定而

一 即存養 香典 香資等事

一 作善なる事の送禮物紙の世分り甚る追ある
法度ニハ地テ此可称ル各子細ル

一 是又也の事にて送禮物紙と世分の長也
中宮権亮

一 平家と権の所少將該り、行の世のしけりある事
ミテ中宮権亮ヲ兼タルニテハ

一 則守ノ事歟

一 受領の事勿論の國司の事歟
國司ノ下ノワカ分給

一 又攝小社之國司日属の事歟
事モアルキニテハ

一 攝小社ノ日属進の事は、
事モアルキニテハ

一 式傳追加の式部進該り此事准教厚尉功以百貫

文部位は、
武官ホトリテ極末の必功百貫文の式部進又侍ニ執ル言の諸司助ニ其司ニアリテ諸司ニトリテ兼ノ任相与ル方如此准其功程ヲ銘ル

一 除名解官せしめ給の重料人たるに配功の事

一 除名は、
イクツモハ皆解却有千

一 被免は、
三三ハ

一 樂人俗人隨身世之輩の初給の事

一 拙者何と先途日属進の受領するに侍
六位ノ持此分

一 日あるに、
六位ノ持此分

一 此の事

一 内舍人は又宿儀の事
中務省ノ被官ニテハ武勇ノ者撰テ内舍人ニ任之リ諸司ノ二分ニ准スル程ノ者歟

一 法親王の御所は禁中より行儀の宮に准りて御所

の品位は親王の御所と親王同等程の御事

法親王の御所は禁中より行儀の宮に准りて御所の品位は親王の御所と親王同等程の御事

一 山宮下少白青侍等の官位初中後同被任下

有別度多し可依人支候哉

一 抄一冊同者多し或は隆朝の

卷者 以細字書之 西之條道運院實隆公記之

云

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

一法鏡をきくは終りしを何の無
品位もあらずに親王同様の所
公以下少の者侍の居るは後
友

世一冊同者多く改の陸
公

